電気ストーブ火災を防ごう

≪電気ストーブ火災の実態≫

令和３年の東京消防庁管内（治外法権火災及び東京消防庁管轄外からの延焼火災を除く。）の火災件数は３，９３５件です。このうち電気製品等から出火した電気火災は１，３９９件（３５．６％）で、電気ストーブ（カーボンヒーター、ハロゲンヒーター及び温風機を含む。）の火災は、８５件（６．１％）発生しています（図１）。電気ストーブ火災による死者は６人、負傷者は３４人と、人命にかかわる被害が大きい特徴があります（図２、図３）。

これからの季節、電気ストーブを使用する機会が増えると思います。電気ストーブの見た目は、炎（直火）がなく火災になりにくいと思われがちですが、ストーブによる火災のうち、電気ストーブ火災の件数が圧倒的に多いという実態があります。使用に際しては、燃えやすいものは近くに置かないなど注意が必要です。

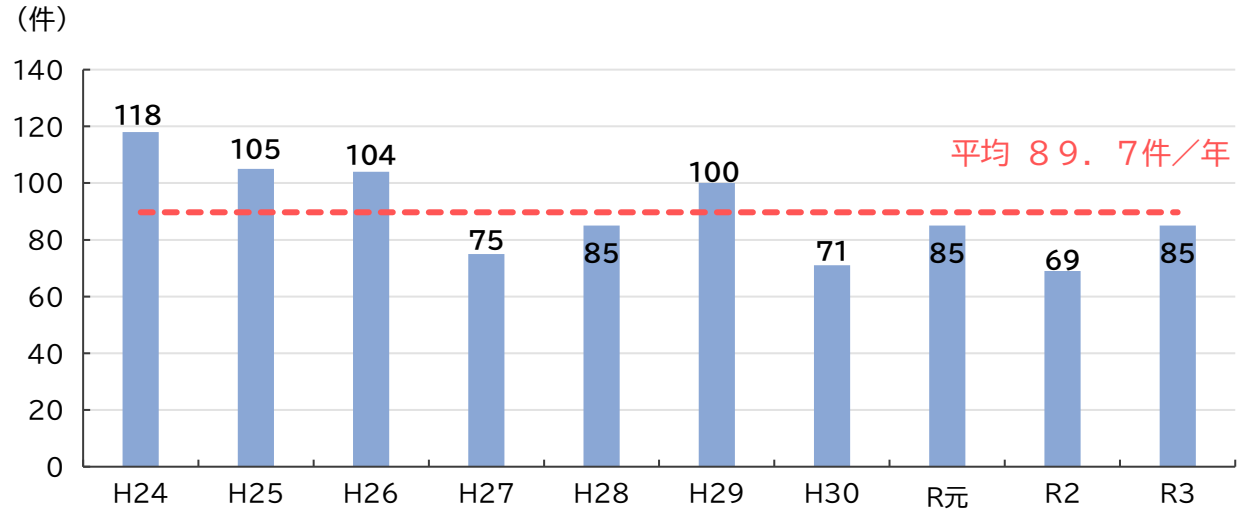


図１　電気ストーブの火災件数の推移

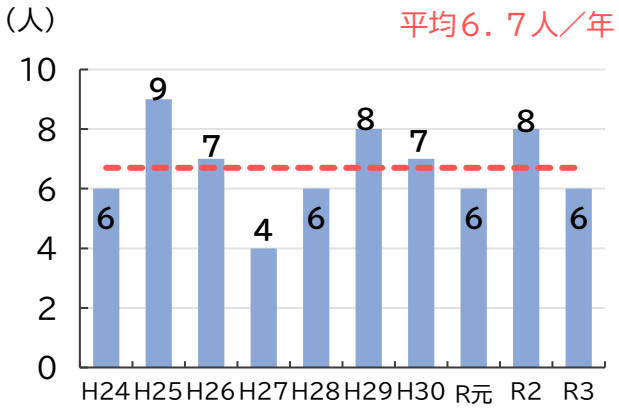


図２　電気ストーブ火災による死者の推移

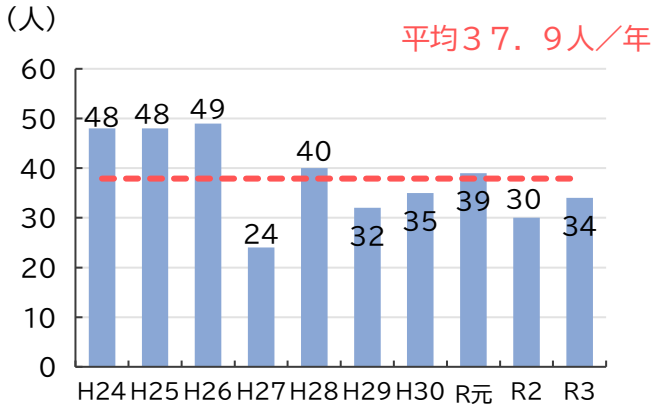


図３　電気ストーブ火災による負傷者の推移

≪電気ストーブ火災の特徴≫

電気ストーブ火災の発生原因として、電気ストーブをつけたまま就寝し布団等に接触して火災が発生する事例や、衣類等が電気ストーブ上に落下し火災が発生する事例が多いという特徴があります（写真１、写真２）。

電気ストーブは、火を使わないため安全なイメージがありますが、ヒータ部分は高温になっているため、近くに燃えるものがあると火災になる恐れがあり注意が必要です（写真３）。

また、電気ストーブ火災は、ぼや火災であっても、一酸化炭素中毒や着衣が燃えたために死者が発生しています。

写真１　電気ストーブに掛布団が接触し出火した様子（実験写真）

写真２　電気ストーブの上に洗濯物が落下し出火した様子（実験写真）

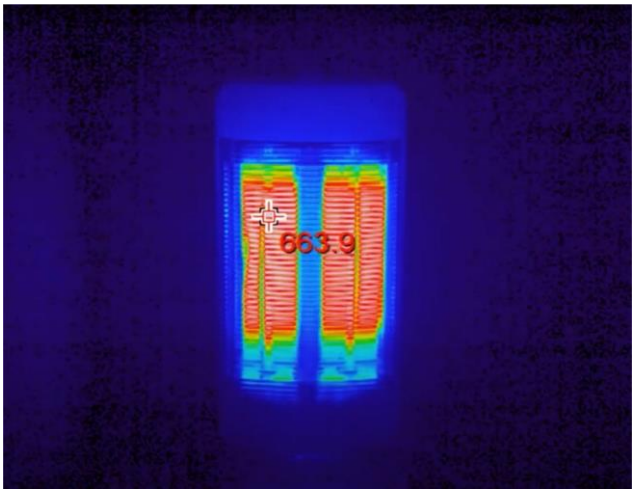


写真３　電気ストーブのヒータ部分の温度測定（実験写真は 663.9 度）

電気ストーブの火災

動画はこちらから
ご覧いただけます。

（ＹｏｕＴｕｂｅ東京消防庁公式チャンネル）

≪令和３年に発生した電気ストーブの火災事例≫

事例１　就寝中に使用していた電気ストーブに可燃物が接触して出火した。住宅の部分焼火災で、居住者の高齢者が死亡した。

事例２　電気ストーブが椅子に近接している状況で乳幼児がスイッチを入れたため、放射熱により出火した。

事例３　使用中の電気ストーブの近くに置いていたタオルが、電気ストーブ上に落下し出火した。

事例４　電気ストーブの電源プラグとテーブルタップとの隙間に埃が溜まり、トラッキング現象が発生し出火した。

事例５　生乾きの衣類を乾かすため、使用中の電気ストーブの上に衣類を置いて出火した。

事例６　居室内のカーテンを開けた際に、使用中の電気ストーブに接触して出火した。

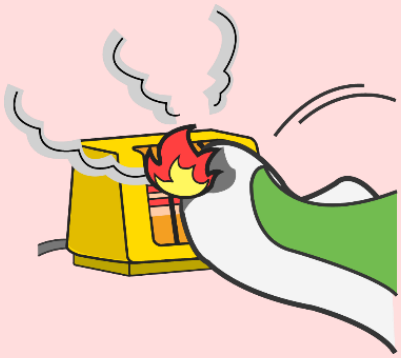
≪電気ストーブ火災を防ぐポイント≫

◎　周囲に燃えやすいものを置かない

◎　外出時や就寝時は必ず消す

◎　ストーブの近くで洗濯物を乾かさない

◎　誤ってスイッチが入らないように

　　使わないときは電源プラグをコンセントから抜く

◎　電源プラグやコードが傷んでいたら使用しない